

名将太田道灌の最期



市役所本庁舎前の太田道灌公像

太田道灌は河越・江戸の両城を根拠地として、古河公方足利成氏および成氏に味方した。長尾景春らと関東の野に合戦を繰り返し、文明十八年（一四八六）七月二十六日、その生涯を閉じました。時に五十五歳。戦陣に倒れたのではなく、相模糟屋（現在の伊勢原市）の上杉氏館で、主君扇谷上杉定正に殺害されるという非業の最期でした。

この事件について、定正は後に江戸城代曾我祐重あての書状で、「道灌が上杉一門で重きを成していた関東管領山内上杉顕定に対し謀反を企てようとしたので、それを未然に防ぐため殺害に及んだのである」と述懐しています。ところが皮肉にも、数年後には扇谷・山内の両上杉氏は一転して激しい抗争を続けることとなります。

この事件当時、道灌の招きで美濃から武蔵に下り江戸城に滞在していた漢詩人万里集九は、同年八月十日、道灌二七日の忌に祭文をささげ、文武両道に秀でた武将の死を悼みました。その一節を、次に掲げます。なお、道灌墓所の一つである洞昌院（伊勢原市）には、万里自筆という祭文の一部が残されているとのこと。上天的賦す所。若くして又英を為し、藹然たる和気あり。花の如く榮に就き、八州の草木悉く威名に服す。倭歌三昧に文武兼ね并す。孫呉の術を誦し、数万の兵を胸にし羽扇を揮いて戦う。

*市木武雄著『梅花無尽蔵注釈』第四巻から引用。ただし、現在一般的な字体、現代かなづかいに改めています。

どんぐり

編集後記

「さよなら、しんちゃん」。昨年9月に市内で保護されたキタオットセイが、3月8日に銚子沖から仲間のいる海に帰っていきました。上野動物園・鴨川シーワールドで大切に保護され、体力を回復。健康状態も良好となりました。しんちゃんの手にも、人の温かさが伝わったと思います。この間、市民の皆さんの関心も高く、古谷公民館主催の「しんちゃんを見に行こう」には、30人以上の親子が参加。大自然に帰ったしんちゃんが、無事に成長することを願っています▶ことは暖冬でした。市内では早めに桜が開花。そんな中、小江戸川越春まつりが始まります。45日の期間中、楽しい催しが開催され、広報担当職員は取材に出かけます。外出には絶好の時期、市民の皆さんも、ぜひ市内散策をお楽しみください。

世界の国から、こんにちは！



韓国／文末姫さん

済州市で生まれました。済州市のある済州島には、韓国でいちばん高いハンラ山があります。海あり山ありで景色がよく、韓国国内でも有名な観光地です。イカやアマダイなどの海産物のほか、シイタケ・ミカンなどが特産物です。平成元年に来日して東京で暮らし、同4年に川越に来ました。まちや人に温かみがあり、川越が大好きです。市の「外国籍市民国際人材ネット」に登録し、市内の小学校で韓国について話をしました。今後は、公民館などでもハングルや文化を、お知らせしていきたいですね。

*外国籍市民の皆さんを対象にした催しは13・17ページ、相談は23ページをご覧ください。

国際交流課国際交流担当・TEL内線2141